

一橋大学経済研究所編集

「経済研究」著者別総索引

第1巻第1号～第11巻第2号

〔特殊文献目録シリーズ No. 7〕

一橋大学経済研究所

1960年5月

『経済研究』著者別総索引

第1巻第1号〜第11巻第2号(1950年1月〜1960年4月)

凡 例

1. 筆者のABC順に排列し、同一筆者の中は発行年月の順にした。
2. 論文名の後の角カッコは次の意味を示す。
[A]論文, [C]寄書, [M]覚書・研究ノート・学会報告, [N]日本経済分析, [R]書評, [S]調査・展望。
3. 巻号は次のように表した, 例えば第1巻第4号は, 1(4)。
4. 最後のカッコ内は発行年月を示す。
5. 研究座談会は「座談会」として[Z]のところに入れた。
6. 日本語訳の論文は訳者からも検索出来る。

[A]

- 阿部 統: 完全雇傭と経済計画——最近の英米経済学の政策的寄与[A] 1(1) (1950, 1)
——: 資本蓄積と生活水準[M] 4(1) (1953, 1)
——: 有沢広巳・中村隆英『国民所得』[R] 7(1) (1956, 1)
相原 光: G. ストウベル『外国為替市場の安定問題』[R] 4(3) (1953, 7)
赤松 要: 国際貿易における不等価交換——名和統一教授の反批判に答えて[A] 2(1) (1951, 1)
——: 酒井正三郎『経済体制と人間類型』[R] 4(4) (1953, 10)
——: 経済政策的認識の諸問題[A] 5(4) (1954, 10)
——: ドイツ学界の印象[M] 6(2) (1955, 4)
青山秀夫: 経済の場所としての日常——マックス・ウェーバーにおける経済および経済学[A] 2(1) (1951, 1)
——: 高橋長太郎『所得分布の変動様式』[R] 7(2) (1956, 4)
荒 憲治郎: シュナイダー『経済理論入門』[R] 3(1) (1952, 1)
——: E. シュナイダー『経済理論入門』[R] 5(3) (1954, 7)
——: 戦後日本経済の分析, 産業連関分析: 産業連関表による若干の「反作用効果」[N] 6(4) (1955, 10)
——: 古谷弘『現代経済学の基本問題』[R] 10(3) (1959, 7)
——: 技術進歩の均衡分析[A] 11(1) (1960, 1)
有馬文雄: ツァーゴロフ『農奴制崩壊期のロシア経済思想概観』[R] 9(4) (1958, 10)
有沢広巳: わが国の国民所得統計について[C] 4(2) (1953, 4)

浅野栄一: セイ法則否定の二つの方法——ケインズ経済学とマルクス経済学の場合[C] 5(3) (1954, 7)

浅野義光: 都留重人氏の戦後国民総生産統計の吟味(1)

について[C] 3(2) (1952, 4)

——: 英国中央統計局『国民所得統計・基礎資料と方法』[R] 8(2) (1957, 4)

足利末男: ソヴェト統計学の動向——1954年3月のソヴェト統計学会議にふれて[M] 6(3) (1955, 7)

遊部久蔵: マルサスの流通主義について[A] 6(1) (1955, 1)

——: 労働価値説の歴史と現代——ミーク「労働価値論研究」について[C] 8(2) (1957, 4)

[B]

馬場啓之助: 貿易乗数と交易条件[A] 4(2) (1953, 4)

馬場正雄: G. カトナ『経済行動の心理学的分析』[R] 5(3) (1954, 7)

——: 景気循環と企業者予想の性質[A] 10(2) (1959, 4)

Baran, P. A.: 後進性の政治経済学, 宮崎犀一訳[A] 3(3) (1952, 7)

——: Economic progress and economic surplus.[C] 5(1) (1954, 1)

Bondi, G.: Die deutsche Wirtschaftswissenschaft nach dem 2. Weltkrieg.[付 大野精三郎訳文][C] 10(2) (1959, 4)

Bronfenbrenner, M.: Concepts of economic freedom.[付 編集部訳文][A] 1(4) (1950, 10)

——: The Japanese economy faces independence.[N] 4(4) (1953, 10)

——: Thoughts on the yen-dollar exchange rate.[C] 10(2) (1959, 4)

[C]

千種義人: 厚生経済学の方法論に関する一考察[A] 10(4) (1959, 10)

[D]

Dantwala, M. L.: Agriculture and economic development in India.[A] 8(4) (1957, 10)

Dobb, M.: 封建制から資本主義への移行——ポール・

- M・スウィーージー氏への反批判, 岡稔訳[C] 2(1) (1951, 1)
- : Again on “The transition from feudalism to capitalism” A reply to Prof. Takahashi.[付 本田創造訳文][C] 4(2) (1953, 4)
- : Marx and the so-called “Law of increasing misery”. [付 岡稔訳文][A] 8(1) (1957, 1)
- [E]
- 海老沢道進: 経済成長と国際収支——最近のわが国における経験[C] 9(2) (1958, 4)
- Eckstein, A.: Conditions and prospects for economic growth in mainland China: Some comments.[A] 8(3) (1957, 7)
- 江見康一: 山口和雄『明治前期経済の分析』[R] 8(1) (1957, 1)
- : 戦後所得分布の変遷(III)厚生調査による接近[S] 9(1) (1958, 1)
- : 日本の資本形成としての住宅投資(1887—1940)[M] 9(3) (1958, 7)
- : 資本形成と貯蓄形成[A] 10(3) (1959, 7)
- ・ロソフスキー, H.: 政府建設投資の測定, 1868—1940[S] 9(1) (1958, 1)
- ・伊大知良太郎: 所得分布と貯蓄函数[S] 10(2) (1959, 4)
- [F]
- 藤井栄一: 基数的効用の諸概念[C] 10(4) (1959, 10)
- 藤井満洲男: 中国経済学界最近の動向[C] 10(2) (1959, 4)
- 藤井 茂: 小島清『国際経済理論の研究』[R] 4(3) (1953, 7)
- 藤野正三郎: オリゴポリと分配率[C] 5(1) (1954, 1)
- : 経済審議庁調査部国民所得課編『日本経済と国民所得』[R] 5(4) (1954, 10)
- : 収穫法則, 独占, 分配および経済成長[A] 6(1) (1955, 1)
- : L. M. コイック『分布ラグと投資分析』[R] 6(3) (1955, 7)
- : 戦後日本経済の分析, 生産性・雇用: 生産性と市場構造[N] 6(4) (1955, 10)
- : 中村嘉吉氏の批判に答う[M] 7(1) (1956, 1)
- : 昭和 31 年度『経済白書』を読んで, 日本経済の構造と近代化[M] 7(4) (1956, 10)
- : 戦後の経済変動(I)経済変動と在庫循環[S] 8(2) (1957, 4)
- : 市村真一『日本経済の構造』[R] 8(4) (1957, 10)
- : 循環的成長過程と貿易収支[S] 11(2) (1960, 4)
- ・高橋長太郎: 戦後所得分布の変遷(I)課税所得調査による接近[S] 9(1) (1958, 1)
- 藤塚知義: 恐慌論と利潤率低下法則——資本論の体系と恐慌の論理[A] 3(1) (1952, 1)
- 福岡正夫: 動学的投入産出過程の最適径路について[A] 6(3) (1955, 7)
- : ヒックス教授の需要理論[C] 8(1) (1957, 1)
- 古沢友吉: 川合一郎『資本と信用——金融経済論序説』[R] 6(2) (1955, 4)
- 古谷 弘: 柴田敬著『ヒックス循環論批判』[R] 3(3) (1952, 7)
- : 資本蓄積径路の有効条件——一つのダイナミック・プログラミング[A] 6(3) (1955, 7)
- [G]
- Gillmann, J. M.: Inter-industry correlation between the organic composition of capital and the rate of profit.[A] 10(3) (1959, 7)
- [H]
- 原 薫: 不換銀行券の流通[A] 10(2) (1959, 4)
- 狭田喜義: 『経済表』の構成について——横山正彦「重農主義分析」から教えをえつつ[C] 9(4) (1958, 10)
- 秦 正流: 岡稔『ソヴェト工業生産の分析』[R] 7(4) (1956, 10)
- : ソ連における工業・建設管理機構の改革[C] 8(4) (1957, 10)
- 服部英太郎: 社会政策理論と『窮乏化法則』[A] 7(2) (1956, 4)
- 林 知己夫: G. カトーナ『経済行動の心理学的解析』[R] 7(1) (1956, 1)
- : レオンチェフ行列におけるデータ誤差の影響について[M] 7(2) (1956, 4)
- 林 直道: 守屋典郎『恐慌と軍事経済』[R] 4(4) (1953, 10)
- 林 雄二郎: エネルギー計画の問題[C] 8(4) (1957, 10)
- Hecht, J.: Le Tableau Economique: sa publication, son interprétation, son influence.[付 編集部の要旨訳文][A] 9(4) (1958, 10)
- 逸見謙三: B. トーマス『移民と経済成長』[R] 6(2) (1955, 4)
- 肥後和夫: 林栄夫『戦後日本の租税構造』[R] 10(4) (1959, 10)
- 平館利雄: 宇野弘蔵『恐慌論』[R] 5(2) (1954, 4)
- 久武雅夫: 賃金の引上と資本形成[A] 6(1) (1955, 1)
- 本田創造: W. Z. フォスター『アメリカ諸国政治史概説』[R] 3(4) (1952, 10)
- : フォーナー編「フレデリック・ダグラスの生涯と著作集」によせて——アメリカ黒人問題の視角から[M] 4(4) (1953, 10)
- : ウィリアム・Z・フォスターの最近の業績——『アメリカ史上の黒人人民』を中心に[M] 6(3) (1955, 7)
- : ラッセル・B・ナイ『ウィリアム・ロイド・ギャ

- リスンと人道主義的改革者たち』[R] 7(2) (1956, 4)
- : W. H. タウンゼンド『リンカーンとブルークラス』[R] 7(3) (1956, 7)
- : アメリカにおける奴隷制度廃止運動の歴史的的前提——南部の奴隷制プランテーション制度[A] 7(4) (1956, 10)
- : プランテーション「資本」の一考察——プランター概念の経済学的規定に関して[M] 9(4) (1958, 10)
- : 鳥羽欽一郎『近代経済史』[R] 10(1) (1959, 1)
- : アメリカ資本主義形成過程における「南部」の問題[A] 10(4) (1959, 10)
- (訳): P. M. スウィージー「再び封建制から資本主義への移行について」高橋教授ならびにドップ教授の批判に答えて[C] 4(2) (1953, 4)
- (訳): M. ドップ「再び封建制から資本主義への移行について」高橋教授の批判に答えて[C] 4(2) (1953, 4)
- 本間要一郎: 『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済、工業問題: 独占資本の若干の論点について[R] 6(4) (1955, 10)
- : 労働生産性の上昇と利潤率低下傾向の法則[C] 11(1) (1960, 1)
- 細谷新治: ソ連研究文献目録について(1, 2) [R] 3(4) (1952, 10); 4(1) (1953, 1)
- : The RAND Corporation のソ連経済研究刊行リスト[M] 10(3) (1959, 7)
- : 米ソの経済競走にかんする文献目録[R] 11(2) (1960, 4)
- [I]
- 市村真一: 貿易依存度の分析から非線型計画論まで——レオンチェフ体系の応用に関する4つの提案[A] 5(2) (1954, 4)
- : モーリス・アレー『純粋経済学概論』(第2版) [R] 6(1) (1955, 1)
- : 大川一司編『日本経済の成長率』[R] 7(4) (1956, 10)
- 家本秀太郎: 山田勇教授のレオンチェフ体系の修正について[A] 3(3) (1952, 7)
- : 産業相互関連の input-output 的分析方法について[A] 5(1) (1954, 1)
- : 有沢広巳編『日本の生活水準』[R] 6(1) (1955, 1)
- 飯田貫一: ベ・イ・リヤシチェンコ『ソ同盟国民経済史』[R] 7(4) (1956, 10)
- 池田顕昭: JI. マイゼンベルク『ソ同盟国民経済における価格形成』[R] 6(2) (1955, 4)
- 今井賢一: J. テンバーゲン『経済政策——その原理と設計』[R] 8(4) (1957, 10)
- 稲葉秀三: 『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済、工業問題: 経済自立の諸問題[R] 6(4) (1955, 10)
- 稲毛満春: 偽装均衡成長と農民の分解[C] 10(1) (1959, 1)
- 井上晴丸: 日本農業と労働市場——現代日本資本主義の構造的な特色からみた農業問題把握の一環として[A] 9(1) (1958, 1)
- 伊大知良太郎: 森田優三教授の『物価指数の正確さ』について[M] 3(4) (1952, 10)
- : F. & V. ルッツ『企業の投資理論』[R] 4(2) (1953, 4)
- : 長期デフレーターの問題点[A] 4(4) (1953, 10)
- : 日本の所得分布[II] 勤労者世帯所得のジブラ分布[S] 5(2) (1954, 4)
- : Digest of statistical research. The personal distribution of income in Japan. [N] 5(2) (1954, 4)
- : H. ウォルト, L. ジューリン共著『需要分析——計量経済学における一研究』[R] 5(2) (1954, 4)
- : 物価水準—義性の一テスト——価格分散の役割[S] 6(2) (1955, 4)
- : 戦後日本経済の分析, 物価: 物価水準と物価構造[N] 6(4) (1955, 10)
- : 第29回国際統計学会[M] 7(2) (1956, 4)
- : 森田優三『経済変動の統計分析法』[R] 7(3) (1956, 7)
- : 物価デフレーターの変曲効果[A] 8(2) (1957, 4)
- : S. J. プレイスおよびH. S. ハウタッカー『家計分析』[R] 8(3) (1957, 7)
- : デフレーター効果の分析方向[M] 10(1) (1959, 1)
- : デフレーターと生産構造[A] 11(1) (1960, 1)
- ・宮川公男: 戦後所得分布の変遷[II] 家計調査による接近[S] 9(1) (1958, 1)
- ・江見康一: 所得分布と貯蓄函数[S] 10(2) (1959, 4)
- ・溝口敏行: わが国の消費成長と国際的位置[S] 11(2) (1960, 4)
- 石川郁男: ポリヤンスキー『18世紀ロシアにおけるマニュファクチュアの経済的構成』[R] 8(2) (1957, 4)
- 石川 滋: 中国の社会主義的蓄積における農業セクターの負担[M] 8(1) (1957, 1)
- : エクスタインのコメントを読んで[A] 8(3) (1957, 7)
- : E. S. カービー編 1955年版『現代中国』[R] 8(3) (1957, 7)
- : 中国農業合作化の生産力効果[M] 8(4) (1957, 10)
- : 社会主義経済における労働需給の決定機構——中ソの比較を通ずる研究[S] 10(3) (1959, 7)
- : W. W. ホリスター『中国の国民総生産と社会勘定 1950~1957』[R] 10(4) (1959, 10)
- : 中国とソ連の労働分配率[M] 11(1) (1960, 1)

- ：中国とインドの経済成長比較[S] 11(2) (1960, 4)
- ：B. ヒギンス『経済開発——諸原理，諸問題および諸政策』[R] 11(2) (1960, 4)
- 磯野 修：生計費指数と数量指数[C] 8(3) (1957, 7)
- 板垣与一：東南アジア貿易の構造[A] 4(3) (1953, 7)
- 井藤半弥：附加価値税の問題点[A] 1(4) (1950, 10)
- ：国際財政協会第9回会議と財政国際学会第11回会議[M] 7(2) (1956, 4)
- 伊東政吉：経済的成長に関する研究(コーリン・クラークの批判を中心として)日本経済の成長率に関する研究(第2報)Ⅲ投資と貯蓄の率[S] 3(1) (1952, 1)
- ：A. H. ハンセン『景気循環と国民所得』[R] 3(3) (1952, 7)
- ：資本形成の実証的研究[II] アメリカにおける資本形成(2)戦後における資本形成[S] 4(1) (1953, 1)
- ：国際貿易の現状，戦後アメリカの貿易と国際収支(Ⅱ)国際収支[S] 4(3) (1953, 7)
- ：アメリカ戦後の金融政策[S] 7(1) (1956, 1)
- ：貨幣の職能と貨幣政策の効果[A] 7(3) (1956, 7)
- ：貨幣的経済理論の性格——三上隆三「ケインズ経済学の構造」によせて[M] 8(2) (1957, 4)
- ：当座預金の払戻高と回転率の推計[M] 9(2) (1958, 4)
- ：M. フリードマン編『貨幣数量説に関する諸研究』[R] 9(3) (1958, 7)
- ：アメリカ金融政策の効果[A] 10(1) (1959, 1)
- ：末永隆甫編『戦後アメリカ資本主義の分析』——所得構造の変化と景気循環[R] 10(3) (1959, 7)
- ：アメリカにおける経済成長と物価安定の問題[S] 11(2) (1960, 4)
- ：アメリカ経済の成長率——ソ連側の計測によせて[S] 11(2) (1960, 4)
- ：小原敬士：アメリカにおける最近の経済集中[S] 1(4) (1950, 10)
- 岩尾裕純：ソ同盟の独立採算制——スターリン論文に関連して[C] 4(4) (1953, 10)
- ：海道 進『社会主義企業経済学研究』[R] 11(1) (1960, 1)
- [J]
- 地主重美：国際経済の安定条件に関するノート[M] 5(2) (1954, 4)
- ジョンストン，B. F.：日本における農業生産性と経済発展，梅村又次抄訳[C] 3(3) (1952, 7)
- [K]
- 嘉治元郎：在庫投資と加速度原理[C] 11(1) (1960, 1)
- 楳西光速：殖産興業政策と産業資本の生成[A] 9(3) (1958, 7)
- 鎌倉 昇：証券資金と産業資金——いわゆる Absorption Theory について[C] 9(2) (1958, 4)
- Kauder, E.：Menger and his library.[C] 10(1) (1959, 1)
- 川口 弘：岸本誠二郎，都留重人監修『講座・近代経済学批判』I—III[R] 9(1) (1958, 1)
- ：篠原三代平『消費函数』[R] 10(1) (1959, 1)
- 川合一郎：信用創造なる事態[C] 5(2) (1954, 4)
- ：投機信用について[A] 7(3) (1956, 7)
- 川野重任：大川教授『資本蓄積過程と農業』について[M] 4(3) (1953, 7)
- ：「農業問題」の経済構造—労働移動制限の構造[A] 9(2) (1958, 4)
- 川島楊子：戦前綿紡績業における市場構造と投資[C] 10(3) (1959, 7)
- 川島芳郎・鈴鹿寛昌：TVAの電力料金と独立採算制[S] 1(4) (1950, 10)
- 経済研究所：Quarterly economic review. 1(4) (1950, 10); (July—Sept., 1950) 2(1) (1951, 1); (Oct.—Dec., 1950) 2(2) (1951, 4); (Jan.—Mar., 1951) 2(3) (1951, 7); (Apr.—June, 1951) 2(4) (1951, 10); (July—Sept., 1951) 3(1) (1952, 1)
- 経済研究編集部(訳)：P. M. スキーージ「『資本主義発展の理論』への批判に答えて」[C] 1(2) (1950, 4)
- (訳)：P. A. サムエルスン「確率と効用測定の試み」[A] 1(3) (1950, 7)
- (訳)：シュンペーター教授の一生——ハーヴァード大学教授会記録[C] 1(3) (1950, 7)
- (訳)：M. ブロンフェンブレナー『経済的自由の概念』[A] 1(4) (1950, 10)
- (要訳)：J. エヒト『経済表—その公刊・解釈・影響について』[A] 9(4) (1958, 10)
- 日本経済研究部門：国際貿易の現状，日本貿易の諸問題[S] 4(3) (1953, 7)
- 木原正雄：イ. ア. グラトコフ『ソヴェト経済概論 1917—1920 年』[R] 8(4) (1957, 10)
- 菊池謙一：アメリカ南部のクロッパー制，プランテーション耕作制度——アメリカ前資本制遺制について[A] 1(2) (1950, 4)
- ：アメリカ南北戦争史研究の現代的意義について[C] 6(2) (1955, 4)
- 木村禧八郎：『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済，財政・金融：財政金融問題[R] 6(4) (1955, 10)
- 木村元一：減税と資本蓄積[A] 4(2) (1953, 4)
- 岸本英太郎：窮乏化法則と労働者階級——労働問題の一般理論[A] 9(3) (1958, 7)
- 喜多村 浩：動態的な国際経済理論のために[A] 4(3) (1953, 7)
- ：都留重人，大川一司編『日本経済の分析』[R] 5(1) (1954, 1)

- 小泉 明：樋口午郎『金融論』[R] 6(2) (1955, 4)
 —：再生産表式と国民所得[A] 7(2) (1956, 4)
 小島 清：J. E. ミイド『国際貿易の幾何学的解明』[R] 4(3) (1953, 7)
 —：国際貿易の均衡条件——逓増生産費下のノーマル・ケース[A] 6(3) (1955, 7)
 —：資本蓄積と産業構造[A] 8(3) (1957, 7)
 —：H. G. ジョンソン『国際貿易と経済成長』[R] 10(4) (1959, 10)
 古瀬大六：経済学に於ける極値問題[C] 5(1) (1954, 1)
 越村信三郎：独占価格と再生産の表式——最大限利潤の法則の理論的探求への一階梯として[A] 5(4) (1954, 10)
 小山満男：柴田祐『多数国貿易の理論』[R] 11(1) (1960, 1)
 久保田明光：ケネー『経済表』の発展——その循環図式の近代理論的展開[A] 9(4) (1958, 10)
 Kuczynski, J.: Zur Ideologie der deutschen bürgerlichen und halbfeudalen Literatur über die Lage der Arbeiter aus dem Vormärz(1840—1847) (ドイツにおける3月革命以前(1840—1847年)の労働者の状態についてのブルジョア的・半封建的文献のイデオロギーによせて, 大野精三郎訳)[C] 10(1) (1959, 1)
 熊谷尚夫：政策基準としての実質所得[A] 9(2) (1958, 4)
 倉林義正：J. S. チップマン『部門間の貨幣の流れと所得形成の理論』[R] 4(2) (1953, 4)
 —：レオンチエフ体系における市場構造の問題[C] 5(2) (1954, 4)
 —：過剰設備について[C] 6(2) (1955, 4)
 —：戦後日本経済の分析, 産業連関分析：産業連関表による労働生産性の分析[N] 6(4) (1955, 10)
 —：クライン, ゴールドバーガー『合衆国の計量経済的模型 1929~1951』[R] 7(2) (1956, 4)
 —：昭和31年度『経済白書』を読んで, 近代化と国際收支[M] 7(4) (1956, 10)
 —：戦後の経済変動(II)在庫投資と資金循環[S] 8(2) (1957, 4)
 —：日本の経済計画(II)経済計画における National budget model[S] 8(4) (1957, 10)
 —：消費函数と Engel 函数[A] 9(1) (1958, 1)
 —：古谷 弘『現代経済学—生産分析』[R] 9(2) (1958, 4)
 紅林茂夫：管理通貨の管理と本質——管理通貨におけるケインズへの疑問[C] 7(3) (1956, 7)
 黒田俊雄：封建制の経済法則と歴史的展開[C] 7(4) (1956, 10)
 [M]
 増田四郎：鈴木圭介著『アメリカ経済研究史序説』[R] 1(3) (1950, 7)
 —：古代より中世への転換の問題[A] 3(4) (1952, 10)
 —：『経済学教科書』第一分冊の第一篇, 即ち歴史に関する部分についての感想[C] 6(3) (1955, 7)
 —：西独史学会の1動向——バイエルンを中心に[C] 7(4) (1956, 10)
 松川七郎：サー・ウィリアム・ベティの生涯[M] 2(1) (1951, 1)
 —：労働価値説の生成に関する1考察——ベティのダウン・サーヴェイと「租税貢納論」[A] 3(3) (1952, 7)
 —：ベティの国富算定論について[M] 3(4) (1952, 10)
 —：E. ストラウス『サー・ウィリアム・ベティ—天才の肖像』[R] 6(1) (1955, 1)
 —：創始期における政治算術[A] 6(2) (1955, 4)
 —：J. グラント『諸観察』の成立, その方法の発展および評価をめぐる歴史的展望——統計学の学問的性格に関する1反省[S] 7(2) (1956, 4)
 —：A. F. Lueder の統計学批判について[A] 10(1) (1959, 1)
 —：A. Yarranton と W. Petty[M] 10(4) (1959, 10)
 —：イギリスにおける近代センサス論の1原型[M] 11(2) (1960, 4)
 三上隆三：貨幣的経済理論によるリカードの冤罪——ケインズのリカード論について[C] 7(3) (1956, 7)
 宮川公男：A. エイチスン, J. A. C. ブラウン『対数正規分布』[R] 9(2) (1958, 4)
 —：伊大知良太郎：戦後所得分布の変遷(II)家計調査による接近[S] 9(1) (1958, 1)
 三宅武雄：R. ヌルクセ『未開発国における資本形成の諸問題』[R] 5(2) (1954, 4)
 —：明治以来の通貨流通速度の研究[C] 5(3) (1954, 7)
 宮本義男：ミーク「労働価値論研究」の方法的見地からの検討[C] 8(2) (1957, 4)
 宮鍋 轅：久留間敏造『価値形態論と交換過程論』[R] 9(2) (1958, 4)
 —：ソ同盟における農産物価格と価値法則の問題[A] 9(3) (1958, 7)
 —：社会主義のもとでの差額地代について[M] 10(2) (1959, 4)
 宮崎義一：下村治著『経済変動の乗数分析』[R] 3(4) (1952, 10)
 —：ロビンソン夫人の長期均衡モデルについて[C] 6(4) (1955, 10)
 —：重ねてロビンソン・モデルについて[C] 7(2) (1956, 4)
 —：ロビンソン夫人の『資本蓄積論』にかんする覚書[C] 8(2) (1957, 4)
 —：川口弘教授に対するお答え[C] 9(3) (1958, 7)
 宮崎屋一：民主主義科学者協会・全日本学生社研連合編講座『資本論の解明』第1—4分冊[R] 4(1) (1953, 1)

- ：マルクスの世界市場論[M] 5(1) (1954, 1)
- 宮沢健一：ケインズの経済循環論[C] 2(4) (1951, 10)
- ：川口弘『ケインズ経済学研究』[R] 6(2) (1955, 4)
- ：吉田義三『経済変動の理論』[R] 8(3) (1957, 7)
- ：貿易乗数と産業連関[A] 9(3) (1958, 7)
- 宮沢光一：D. ブラックウェル, M. A. ガーシック「ゲーム理論と統計的決定」[R] 6(1) (1955, 1)
- 溝口敏行・伊大知良太郎：わが国の消費成長と国際的位置[S] 11(2) (1960, 4)
- 水野正一：価格水準と均衡予算の乗数効果[C] 4(2) (1953, 4)
- ：ロビンソンの生産函数について[C] 8(2) (1957, 4)
- 水田 洋：ハチスンにおける道徳哲学と経済学[A] 8(2) (1957, 4)
- 森田優三：物価指数の正確さ[A] 3(3) (1952, 7)
- ：伊大知良太郎『デフレーター』[R] 9(4) (1958, 10)
- 村松祐次：中国の土地改革と工業化[A] 4(4) (1953, 10)
- [N]
- 長沢惟恭：乗数分析と企業者利潤[A] 10(1) (1959, 1)
- 長洲一二：Keynes 主義経済政策と社会主義[A] 8(3) (1957, 7)
- 中村 ジェームズ：ウィリアム・ラックウッド『日本経済の発展』[R] 7(1) (1956, 1)
- 中村嘉吉：独占と個別需要の価格弾力性[M] 7(1) (1956, 1)
- ：上野裕也, 建元正弘『経済行動の計量的分析』[R] 9(1) (1958, 1)
- 中村隆英：『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済, 工業問題：工業における若干の問題点と統計利用[R] 6(4) (1955, 10)
- ：篠原三代平『所得分配と賃金構造』[R] 7(1) (1956, 1)
- ：ランゲ『投入産出分析』について[C] 9(3) (1958, 7)
- 中山伊知郎：資本理論の2つの側面[A] 1(1) (1950, 1)
- ：都留重人『国民所得と再生産』[R] 2(3) (1951, 7)
- ：資本蓄積の基本理論[A] 4(1) (1953, 1)
- ：資本理論と所得理論——ロビンソン女史の『資本蓄積論』をよむ[C] 8(2) (1957, 4)
- 名和統一：古典派貿易理論とマルクス——赤松要教授のマルクス貿易論解釈の再批判[A] 2(2) (1951, 4)
- ：ソ連の貿易国家独占について——ソ連貿易の性質とその発展可能性[S] 4(3) (1953, 7)
- 野田 孜：経済的成長に関する研究(コーリン・クラークの批判を中心として)日本経済の成長率に関する研究(第2報) V円の購買力測定(国際単位)[S] 3(1) (1952, 1)
- ：E. M. オジャラ『農業と経済進歩』[R] 4(1) (1953, 1)
- ：産業構造と資本係数(II) 農業の資本係数[S] 5(1) (1954, 1)
- ：農産物物価指数の推計[M] 5(3) (1954, 7)
- ：明治以降生計費指数の推計[M] 6(2) (1955, 4)
- ：戦後日本経済の分析, 生産性・雇用：農業の生産性と兼業[N] 6(4) (1955, 10)
- ：農家の貯蓄行動[A] 7(2) (1956, 4)
- ：H. F. リダル『イギリス人の所得と貯蓄』[R] 7(3) (1956, 7)
- ：戦後の経済変動(III) 食糧輸入循環と農業変動[S] 8(2) (1957, 4)
- ：林雄二郎編『日本の経済計画』[R] 8(4) (1957, 10)
- ：M. W. リーダー『成長経済における労働』[R] 9(4) (1958, 10)
- ：戦後に関する投資・消費の推計 III. 小売評価(Retail Valuation)法による消費支出の推計[S] 10(1) (1959, 1)
- ・大川一司：日本の生活水準——戦前戦後の比較測定[S] 2(1) (1951, 1)
- ・梅村又次：剰余価値率と分配率の実証的研究 I. 日本の剰余価値率と分配率(2) 農業のばあい[S] 3(2) (1952, 4)
- ・Umemura, M.: Digest of statistical research. [N] 3(2) (1952, 4)
- 野々村一雄：ソヴェート愛国主義と統計学——ソヴェート統計学界の自己批判について[S] 1(1) (1950, 1)
- ：「二つの体制」と経済統計の問題——最近英米学界のソヴェート統計批判について[S] 1(1) (1950, 1)
- ：アレクサンダー・バイコフ著『ソヴェート経済制度の発展』[R] 1(2) (1950, 4)
- ：エフ・イー・ミハレフスキー『両大戦期における金問題』[R] 1(4) (1950, 10)
- ：不均等蓄積と不均衡——再生産＝恐慌理論の批判[S] 2(2) (1951, 4)
- ：ヤー・アー・クロンロード『ソヴェート連邦における貨幣流通の強化と資本主義諸国におけるインフレーション』[R] 2(4) (1951, 10)
- ：ハリー・シュワルツ『ソヴェート・ロシアの経済』[R] 3(1) (1952, 1)
- ：剰余価値率の概念[A] 3(2) (1952, 4)
- ：ソ連邦経済の現状 II. 生活水準の向上[S] 3(3) (1952, 7)
- ：S. N. プロコボヴィッツ『ソ連邦の第四次五ヵ年計画』[R] 3(4) (1952, 10)
- ：国際貿易の現状, 戦後の東西貿易および社会主義諸国の貿易[S] 4(3) (1953, 7)
- ：ソヴェート経済の現段階(II) 農業[S] 5(3) (1954, 7)
- ：ソ同盟経済における蓄積——蓄積における取引税の役割[A] 5(4) (1954, 10)

- ：マルクス主義経済学前進のための基本的文献の刊行について——主としてマルクス『剰余価値学説史』新版を中心とする文献紹介[R] 6(1) (1955, 1)
- ：社会主義的再生産と蓄積の問題(II) ソヴェト社会主義経済の再生産構造[S] 6(3) (1955, 7)
- ：『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済、総論[R] 6(4) (1955, 10)
- ：社会主義社会の国民所得[C] 7(1) (1956, 1)
- ：アー・ヴェー・パチュエリン『ソヴェート同盟における利潤と取引税』[R] 7(3) (1956, 7)
- ：ソヴェト第6次5ヵ年計画の問題点(II) 農業[S] 7(4) (1956, 10)
- ：国民経済バランスの理論[A] 8(2) (1957, 4)
- ：社会主義経済のもとの価値と価格(I) ソヴェト経済における価値法則[付 文献目録][S] 9(2) (1958, 4)
- ：社会主義的国際経済協力の現段階[M] 9(3) (1958, 7)
- ：H. コツィオレータ『マルクス・レーニン主義国民所得論の根本問題——社会主義篇』[R] 9(4) (1958, 10)
- ：E. H. カー『ソヴェート・ロシア史——1 国社会主義』[R] 10(3) (1959, 7)
- ：初期のゴスプラン[A] 10(4) (1959, 10)
- ：米ソの経済競争[S] 11(2) (1960, 4)
- (訳)：都留重人「マルクスの利潤率低落理論——批判の批判」[A] 2(3) (1951, 7)
- 則武保夫：銀行独占と経済発展[C] 9(3) (1958, 7)

[O]

- 小尾恵一郎：労働の供給について——経験的事実と理論の再考[C] 8(3) (1957, 7)
- 小椋広勝：井上晴丸、宇佐美誠次郎著『危機における日本資本主義の構造』[R] 3(4) (1952, 10)
- 小原敏士：シイモア・ハリス編『アメリカ資本主義を救う道』[R] 1(1) (1950, 1)
- ：アルヴィン・ハンセン著『貨幣理論と財政政策』[R] 1(2) (1950, 4)
- ：アメリカ独占資本の特質——独占産業の資本蓄積形態[A] 2(2) (1951, 4)
- ：ジョン・R. コモンズ『集団行動の経済学』[R] 3(1) (1952, 1)
- ：剰余価値率と分配率の実証的研究(II) アメリカにおける剰余価値率と所得分配率[S] 3(2) (1952, 4)
- ：ジョセフ・ドーフマン『アメリカ文明における経済思想』[R] 3(3) (1952, 7)
- ：資本形成の実証的研究(II) アメリカにおける資本形成(1) 資本形成の長期趨勢[S] 4(1) (1953, 1)
- ：矢口孝次郎『資本主義成立期の研究』[R] 4(2) (1953, 4)

- ：国際貿易の現状、戦後アメリカの貿易と国際収支(I) 商品貿易[S] 4(3) (1953, 7)
- ：アメリカ資本主義における「停滞」の問題——主としてスタインドルの研究について[A] 5(2) (1954, 4)
- ：ソースタイン・ヴェブレンに関する研究の展望——その問題意識を中心として[S] 5(4) (1954, 10)
- ：アメリカ農業生産力と農業政策(I) アメリカ農業生産力[S] 6(1) (1955, 1)
- ：アメリカ独占資本主義に関する研究の動向[R] 6(2) (1955, 4)
- ：戦後日本経済に関する諸外国の論評(I) アメリカ及びイギリスの文献[R] 6(4) (1955, 10)
- ：経済学における計量的方法と歴史的方法——アメリカ経済成長論のための序説[M] 7(4) (1956, 10)
- ：故ウィルフレッド・スミス教授の業績[M] 8(3) (1957, 7)
- ：ヴェブレンとマルクス[A] 9(2) (1958, 4)
- ：アメリカ自動車産業における独占(II) 寡占体としてのフォード自動車会社——Administered Price について[S] 9(3) (1958, 7)
- ：ソースタイン・ヴェブレンの生誕百年祭[M] 10(2) (1959, 4)
- ・伊東政吉：アメリカにおける最近の経済集中[S] 1(4) (1950, 10)
- 岡 稔：チャプキン編『チェコスロヴァキアの第1次経済発展5ヵ年計画』[R] 2(4) (1951, 10)
- ：経済的成長に関する研究(コーリン・クラークの批判を中心として) ソ連邦国民所得とその成長率の問題(I) 国民所得推計の問題点(1~5) [S] 3(1) (1952, 1)
- ：ソ連邦経済の現状 I. 生産力の復興と発展(1) 達成[S] 3(3) (1952, 7)
- ：再生産表式の1考察——均衡の前提を中心にして[A] 3(4) (1952, 10)
- ：H. B. スターリン『ソ連邦における社会主義の経済的諸問題』[R] 4(2) (1953, 4)
- ：P. バラン『経済進歩と経済余剰』によせて[C] 5(1) (1954, 1)
- ：A. バーグソン『ソヴェト経済の成長』[R] 5(2) (1954, 4)
- ：ソヴェト経済の現段階(I) 工業[S] 5(3) (1954, 7)
- ：ブリューミン『現代英国ブルジョア経済学批判』[R] 6(1) (1955, 1)
- ：K. B. オストロヴィチヤノフ他編『経済学教科書』[R] 6(2) (1955, 4)
- ：社会主義的再生産と蓄積の問題(I) 社会主義経済への再生産表式の適用[S] 6(3) (1955, 7)
- ：ソ同盟における投資効率の測定法をめぐる論争について[M] 7(3) (1956, 7)
- ：ソヴェト第6次5ヵ年計画の問題点(I) 工業, (III)

- 投資[S] 7(4) (1956, 10)
- ：窮乏化法則の問題点[A] 8(1) (1957, 1)
- ：相対的窮乏化の問題によせて[M] 9(1) (1958, 1)
- ：社会主義経済のもとでの価値と価格(II)ソヴェト経済における価格形成[付 文献目録][S] 9(2) (1958, 4)
- ：労働生産性の概念と測定について[M] 10(1) (1959, 1)
- ：ソ同盟科学アカデミー経済学・哲学・法学部門『統計学紀要』第3巻[R] 10(2) (1959, 4)
- ：ペ・コルダ『労働生産性の測定』[R] 10(4) (1959, 10)
- ：計画経済のもとでの価格と経済計算[A] 11(1) (1960, 1)
- (訳)：M. ドップ『封建制から資本主義への移行——ポール・M. スウィーージー氏への反批判』[C] 2(1) (1951, 1)
- (訳)：P. M. スウィーージー「封建制から資本主義への移行——モリス・ドップ氏への批判」[C] 2(1) (1951, 1)
- (訳)：M. ドップ「マルクスといわゆる窮乏化法則」[A] 8(1) (1957, 1)
- 大川一司：勤労者生計と所得税負担[S] 1(2) (1950, 4)
- ：セオドア W. シュルツ著『農業における生産と厚生』[R] 1(3) (1950, 7)
- ：所得・生産性等の地域的比較に関する最近の諸論[R] 1(4) (1950, 10)
- ：実質所得の比較・測定——尺度としての価格の性質[A] 2(3) (1951, 7)
- ：日本国民所得統計の検討(I)国民所得の長期変動——日本経済の成長率に関する研究(第1報)[S] 2(4) (1951, 10)
- ：K. W. カップ『私的企業の社会的費用』[R] 2(4) (1951, 10)
- ：経済的成長に関する研究(コーリン・クラークの批判を中心として)日本経済の成長率に関する研究(第2報)IV所得の分配率VI総括と結論[S] 3(1) (1952, 1)
- ：ジョンストン氏の寄稿に添えて[C] 3(3) (1952, 7)
- ：資本の形成過程と農業[A] 4(1) (1953, 1)
- ：川野教授の批判に答えて[M] 4(3) (1953, 7)
- ：山田雄三『日本経済の計画論的考察』[R] 5(3) (1954, 7)
- ：成長分析と相対価格[M] 5(4) (1954, 10)
- ：Digest of statistical research. The effects of the recent deflation policy upon the economy of Japan.[N] 6(2) (1955, 4)
- ：戦後日本経済の分析、生産性・雇用：生産性向上と雇用問題[N] 6(4) (1955, 10)
- ：第9回農業経済学者国際会議[M] 7(2) (1956, 4)
- ：労働への分配率上昇の諸条件——単純なモデルによる分析[A] 8(1) (1957, 1)
- ：日本の経済計画(I)適正成長率の諸条件——計画立案の作業方式[S] 8(4) (1957, 10)
- ：過剰就業と偽装均衡——批判に答えて[M] 9(1) (1958, 1)
- ：戦後に関する投資・消費の推計(I)はしがき——問題の提示[S] 10(1) (1959, 1)
- ：傾斜構造の分析[A] 10(3) (1959, 7)
- ：偽装失業と労働の限界生産力——初期的停滞の経済について[M] 10(4) (1959, 10)
- ：第6回国際所得国富学会の印象[M] 11(2) (1960, 4)
- ・野田孜：日本の生活水準——戦前戦後の比較測定[S] 2(1) (1951, 1)
- 置塩信雄：剰余価値率の測定[A] 10(4) (1959, 10)
- 大来佐武郎：アジア後進国における資本形成ないし蓄積の問題[C] 4(1) (1953, 1)
- 大河内一男：労働組合における日本型について[A] 2(4) (1951, 10)
- 大熊一郎：M. アブラモヴィッツ『在庫品と景気循環』[R] 4(2) (1953, 4)
- ：オランダの長期計画モデルの構成について[C] 8(4) (1957, 10)
- ：篠原三代平編『産業構造』[R] 11(1) (1960, 1)
- 奥沢篤次郎：Ch. ベトゥレーム『経済成長の極大化』について[R] 8(4) (1957, 10)
- 大野精三郎：スラファ編『リカード全集』の刊行について[R] 3(3) (1952, 7)
- ：リチャード・ジョーンズにおける歴史と理論[A] 4(2) (1953, 4)
- ：平瀬已之吉『経済学の古典と近代』[R] 6(1) (1955, 1)
- ：マルクス経済学の方法をめぐる二、三の文献と問題[M] 7(1) (1956, 1)
- ：ヘーゲルにおける古典派経済学の把握[A] 7(4) (1956, 10)
- ：ヘーゲルと古典派経済学[S] 8(3) (1957, 7)
- ：Hegel=Marxの労働把握とその射程[M] 9(3) (1958, 7)
- ：18世紀における歴史・社会の唯物論的把握の一典型——John Millarの“The origin of the distinction of ranks, 1771”の意義[A] 10(3) (1959, 7)
- (訳)：J. クチンスキー「ドイツにおける3月革命以前(1840—47年)の労働者の状態についてのブルジョア的・半封建的文献のイデオロギーによせて」[C] 10(1) (1959, 1)
- (訳)：G. ボンディ「第2次世界戦争後におけるドイツの経済科学」[C] 10(2) (1959, 4)

- : Historical sociologistとしての John Millar
—Millar 研究小史と最近の1傾向[M] 11(2) (1960, 4)
- Oshima, H. T.: Survey of various long-term estimates of Japanese national income. [N] 4(3) (1953, 7)
- : Notes on an alternative method of estimating the national income and expenditure of Japan, 1881.[A] 8(3) (1957, 7)
- : Rejoinder to Henry Rosovsky[C] 9(1) (1958, 1)
- 大島雄一: R. ギエヌフ『マルクス価値論の問題』[R] 8(2) (1957, 4)
- 大塚久雄: マニユファクチャの歴史的形態[A] 7(4) (1956, 10)
- 大内 力:『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済, 農業: 農業問題[R] 6(4) (1955, 10)
- 尾崎 巖: 生産函数の計測と企業の理論[C] 9(1) (1958, 1)
- [R]
- Robinson, J.: A theory of long-run development.[C] 6(4) (1955, 10)
- Rosovsky, H.: Some thoughts on Mr. Oshima's benchmark for 1881.[A] 8(3) (1957, 7)
- ・江見康一: 政府建設投資の測定, 1868—1940[S] 9(1) (1958, 1)
- [S]
- 斎藤謙造: 巨視的分配論の問題点[C] 9(3) (1958, 7)
- 坂元平八: 社会調査と標本調査について[C] 7(2) (1956, 4)
- 阪本楠彦: 山田盛太郎編『変革期における地代範疇』[R] 8(3) (1957, 7)
- 坂田太郎:『経済表』とマルクス[A] 9(4) (1958, 10)
- : ケネー像と『経済表』第1版の手稿について[M] 9(4) (1958, 10)
- Samuelson, P. A.: Probability and the attempts to measure utility. [付 訳文][A] 1(3) (1950, 7)
- 佐々木重一: 租税負担についての一考察[C] 2(2) (1951, 4)
- 佐藤 弘: 経済地理学の諸問題[A] 5(1) (1954, 1)
- 佐藤金三郎: 「経済学批判準備ノート」における Marx の利潤率低下論について[C] 9(3) (1958, 7)
- 佐藤定幸: 中間恐慌および部分的恐慌[M] 5(4) (1954, 10)
- : アメリカ農業生産力と農業政策(II)戦後アメリカ農業政策の動向[S] 6(1) (1955, 1)
- : ソ同盟科学アカデミア経済研究所編『アメリカ経済の軍事化と勤労者の状態の悪化』[R] 6(3) (1955, 7)
- : 戦後日本経済に関する諸外国の論評(II)ソ同盟の文献[R] 6(4) (1955, 10)
- : 戦後アメリカ経済の循環的発展について[A] 7(1) (1956, 1)
- : アメリカにおけるオートメーション[S] 8(1) (1957, 1)
- : 「金融資本」概念にかんする一考察[M] 9(2) (1958, 4)
- : アメリカ自動車産業における独占(Ⅰ)戦後における自動車産業の集中[S] 9(3) (1958, 7)
- : ソ連科学アカデミー, 世界経済国際関係研究所『第2次世界戦争後のアメリカの独占資本』[R] 10(1) (1959, 1)
- : 戦後資本主義経済における物価騰貴について[A] 10(2) (1959, 4)
- : 戦後景気循環の特徴について——とくに J. メンデリソン論文をめぐって[M] 11(1) (1960, 1)
- : ヴェ・イエ・モティリョフ『金融資本とその組織形態』[R] 11(2) (1960, 4)
- シュンペーター教授の一生——ハーヴァード大学教授会記録, 編集部訳[C] 1(3) (1950, 7)
- 関 恒義: 森嶋通夫『動学的経済理論』[R] 2(3) (1951, 7)
- : 賃金闘争の模型分析[A] 7(1) (1956, 1)
- : 置塩信雄『再生産の理論』[R] 9(1) (1958, 1)
- 柴田 敬: 古谷教授の批判に対して[M] 3(4) (1952, 10)
- 柴田 裕: 資本蓄積と国際分業——小島モデルについて[C] 9(1) (1958, 1)
- 柴山幸治: 岡嶋氏「再生産表式の一考察」によせて[M] 4(2) (1953, 4)
- 渋谷一郎: 18 世紀末のロシア経済思想の一断面——60 年代の反農奴制思想[C] 10(4) (1959, 10)
- 島 恭彦: 町村合併と農村の変貌——公有林野問題に関連して[A] 8(2) (1957, 4)
- 島崎晴哉: フランスにおける貧困化論の一側面[C] 8(1) (1957, 1)
- 島津亮二: F. マハルプ『売手競争の理論』,『独占の政治経済学』[R] 7(1) (1956, 1)
- 下村 治: 景気変動と Feedback[A] 3(1) (1952, 1)
- : 宮崎義一氏の批判に対して[M] 4(1) (1953, 1)
- 新庄 博: 第2次大戦後の景気変動——経済成長と景気循環に関して[A] 10(1) (1959, 1)
- 篠原三代平: アメリカにおける経済予測——主として消費函数論争を中心として[S] 1(3) (1950, 7)
- : ハンセン記念論文集『所得・雇傭および公共政策』[R] 2(1) (1951, 1)
- : 日本の賃銀構造(II)産業間の賃銀構造[S] 2(3) (1951, 7)
- : デューゼンベリ『所得・貯蓄および消費者行動の理論』[R] 2(4) (1951, 10)
- : 所得分析と価格機構[A] 3(1) (1952, 1)
- : 剰余価値率と分配率の実証的研究Ⅰ. 日本の剰余

- 価値率と分配率(1)製造工業のばあい[S] 3(2) (1952, 4)
- : T. C. チャン『国際収支の循環的変動』[R] 3(3) (1952, 7)
- : ストックホルム学派の基本方程式[M] 3(4) (1952, 10)
- : 資本形成の実証的研究(I)日本における資本形成(2)「財貨流れ法」による推計[S] 4(1) (1953, 1)
- : Digest of statistical research. Capital formation in Japan.[N] 4(1) (1953, 1)
- : チャン『実質賃金・利潤率の変動と景気循環』[R] 4(4) (1953, 10)
- : 産業構造と資本係数(I)工業・商業の資本係数(1)大企業を中心とした産業別資本係数——経営分析データを素材として[S] 5(1) (1954, 1)
- : 経済進歩と価格体系[A] 5(3) (1954, 7)
- : 森嶋通夫『資本主義経済の変動理論』[R] 6(3) (1955, 7)
- : 戦後日本経済の分析, 資本形成: 設備投資・在庫投資[N] 6(4) (1955, 10)
- : 資本係数の産業別測定[M] 7(4) (1956, 10)
- : 産業構造と投資配分[A] 8(4) (1957, 10)
- : フリードマンの恒常所得仮説[M] 9(1) (1958, 1)
- : 青山秀夫編『日本経済と景気変動』[R] 9(3) (1958, 7)
- : 戦後に関する投資・消費の推計(II)コモ法による固定資本形成と消費支出の推計[S] 10(1) (1959, 1)
- : 金融統計による貯蓄推計の性格[M] 10(4) (1959, 10)
- : 経済発展と貿易——小島清氏の批判に答う[A] 11(1) (1960, 1)
- : 国際的視野からみた戦後経済成長[S] 11(2) (1960, 4)
- : 経済企画庁経済研究所編『在庫変動に関する若干の分析』[R] 11(2) (1960, 4)
- 篠原泰三: 大川一司『農業の動態分析』[R] 5(4) (1954, 10)
- 塩野谷九十九: 技術的進歩の古典派理論[A] 4(4) (1953, 10)
- 塩野谷祐一: C. N. ヴァキール, P. R. ブラーマナンド『経済発展のための計画』[R] 8(4) (1957, 10)
- 白石 孝: D. マクドーガル『世界のドル問題』[R] 9(3) (1958, 7)
- 白杉庄一郎: 松川七郎『ウィリアム・ベティ——その政治算術=解剖の生成に関する1研究』上巻[R] 10(2) (1959, 4)
- 穴戸寿雄: 大川一司『生活水準の測定』[A] 5(2) (1954, 4)
- 副島種典: 資本循環の三形式と社会主義的再生産[A] 2(4) (1951, 10)
- : ソ連邦経済の現状 I. 生産力の復興と発展(2~3) [S] 3(3) (1952, 7)
- : スターリン論文に関連する若干の問題について[C] 4(4) (1953, 10)
- : デ・イ・ローゼンベルグ『19世紀40年代におけるマルクスとエンゲルスの経済学説の発展の概要』[R] 7(2) (1956, 4)
- : いわゆる「国民経済の計画性ある発展の法則」について[A] 8(4) (1957, 10)
- (訳): H. A. ツァーゴロフ「経済科学への偉大な寄与」[A] 9(4) (1958, 10)
- 末永茂喜: 『剰余価値学説史』における Marx の意図に就いて[A] 6(3) (1955, 7)
- 杉原四郎: J. S. ミルの社会主義論——遺稿 Chapters on Socialism を中心として[C] 7(1) (1956, 1)
- 杉本栄一: 経済的測定の本質[A] 1(3) (1950, 7)
- 杉本俊朗: M. リュベール『カール・マルクス書誌, 附フリードリッヒ・エンゲルス著作目録』[R] 8(1) (1957, 1)
- 杉山忠平: アイザック・バットの経済思想[A] 10(2) (1959, 4)
- 住谷一彦: 小林昇『経済学史研究序説——スミスとリスト』[R] 9(3) (1958, 7)
- 鈴鹿寛昌・川島芳郎: TVA の電力料金と独立採算制[S] 1(4) (1950, 10)
- Sweezy, P. M.: In answer to criticisms on “The theory of capitalist development”. [C][付 訳文・著作目録] 1(2) (1950, 4)
- : 封建制から資本主義への移行——モーリス・ドブブ氏への批判, 岡稔訳[C] 2(1) (1951, 1)
- : Again on “The transition from feudalism to capitalism”. A reply to prof. Takahashi and Prof. Dobb. [付本田創造訳文][C] 4(2) (1953, 4)
- [T]
- 館 竜一郎: 流動性需要と経済変動[A] 7(3) (1956, 7)
- 大陽寺順一: 絶対的貧困化の法則性について[A] 8(1) (1957, 1)
- 高木幸二郎: 資本蓄積過程の1問題点——ポール・スウィージーの「蓄積と労働力の価値」について[M] 4(1) (1953, 1)
- 高橋長太郎: ソ連邦国民所得統計の吟味[S] 1(1) (1950, 1)
- : カール・シャウプ著『国民所得分析の諸原理』[R] 1(1) (1950, 1)
- : 所得税負担の分析[S] 1(2) (1950, 4)
- : イギリスにおける国民経済計算[S] 1(3) (1950, 7)
- : 国民所得と資本蓄積 1(4) (1950, 10)
- : 佐々木氏の寄書に答う[C] 2(2) (1951, 4)

- ：日本の賃銀構造(I)賃銀分布の変動[S] 2(3) (1951, 7)
- ：国富推計に関する最近の諸問題[R] 2(3) (1951, 7)
- ：日本国民所得統計の検討(I)戦後分配国民所得の変容[S] 2(4) (1951, 10)
- ：経済的成長に関する研究(コーリン・クラークの批判を中心として)ソ連邦国民所得とその成長率の問題点(II)国民所得の成長率と支出構成[S] 3(1) (1952, 1)
- ：国民所得国富研究会編『所得と富の研究』第13巻[R] 3(1) (1952, 1)
- ：所得分配率と再分配効果[A] 3(2) (1952, 4)
- ：資本形成の実証的研究(I)日本における資本形成(1)金融面からみた日本の資本蓄積[S] 4(1) (1953, 1)
- ：T. シトフスキ『厚生と競争』[R] 4(1) (1953, 1)
- ：S. クズネツ『高額所得層の所得と貯蓄』[R] 4(4) (1953, 10)
- ：日本の所得分布(I)個人所得の分布[S] 5(2) (1954, 4)
- ：景気変動と利潤の分布[M] 6(1) (1955, 1)
- ：固定資本の回転と投資決意[A] 6(2) (1955, 4)
- ：戦後日本経済の分析，資本形成：資金需給・産業別貸出と政府投資[N] 6(4) (1955, 10)
- ：第4回国民所得国富調査国際協会[M] 7(2) (1956, 4)
- ：経済発展と政府投資[A] 7(4) (1956, 10)
- ：N. カルドア『支出税について』[R] 8(1) (1957, 1)
- ：高田保馬編『経済成長の研究』第3巻『経済の成長と安定』[R] 9(2) (1958, 4)
- ：資金循環における貯蓄分析と流量分析[M] 9(4) (1958, 10)
- ：独立投資の発展経路[A] 10(2) (1959, 4)
- ：成長モデルの諸問題[A] 11(2) (1960, 4)
- ：藤野正三郎：戦後所得分布の変遷(I)課税所得調査による接近[S] 9(1) (1958, 1)
- 高橋寿常：M. A. コーブランド『マネー・フローの研究』[R] 5(3) (1954, 7)
- 高橋幸八郎：封建制から資本主義への移行——スウィージー・ドップ両氏の論争に寄せて[C] 2(2) (1951, 4)
- 高橋泰藏：オーバー・ローン現象とその現段階的意味[A] 3(1) (1952, 1)
- ：欧米戦後経済問題の一断面[M] 5(3) (1954, 7)
- 高須賀義博・都留重人：再生産表式と固定資本の補填[S] 10(4) (1959, 10)
- 高田保馬：自然成長率に関する覚書[A] 6(2) (1955, 4)
- 竹浪祥一郎：ゲオルゲ・ケメーニュ『1947—9年のハンガリーにおける経済計画化』[R] 5(1) (1954, 1)
- ：『経済学教科書』(第2版)第3篇の二，三の問題[M] 7(3) (1956, 7)
- ：ソ同盟科学アカデミー経済研究所『ソヴェト工業経済学』[R] 8(2) (1957, 4)
- 玉野井芳郎：大野精三郎『ジョーンズの経済学』[R] 5(3) (1954, 7)
- ：周期的恐慌——1836—37年の恐慌を中心として[C] 6(1) (1955, 1)
- 種瀬 茂：市場価格の周期的変動と恐慌[A] 7(3) (1956, 7)
- ：利潤率の傾向的低下の法則について——Gillman氏の著The Falling Rate of Profit, 1957.によせて[C] 10(2) (1959, 4)
- 田沼 肇：『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済，労働：労働問題——貧困化の分析を中心に[R] 6(4) (1955, 10)
- 建元正弘：レオンティエフ逆説と日本貿易の構造[A] 9(1) (1958, 1)
- 寺村鉄三：ベ・カ・フィグルノフ『ヨーロッパ人民民主主義諸国における社会主義経済の建設と外国貿易の発展』，エフ・ベ・ブィストロフ，ゲ・エス・ロバケン監修『人民民主主義諸国の国際決済と通貨関係』[R] 9(2) (1958, 4)
- 東畑精一：シュムペーター『経済分析の歴史』1954年[R] 5(4) (1954, 10)
- 椋川一朗：増田四郎『西洋封建社会成立期の研究』[R] 10(4) (1959, 10)
- Цаголов, Н. А.: Великий вклад в экономическую науку.〔付 副島種典訳文〕[A] 9(4) (1958, 10)
- 津田内匠：近年におけるTurgot研究の動き[C] 6(3) (1955, 7)
- ：Turgotの経済思想についての一考察——Quesneyの発展的継承者として[S] 9(4) (1958, 10)
- ：国立人口問題研究所『フランスワ・ケネーとフィジオクラシ』[R] 10(2) (1959, 4)
- ：Turgotの土地単税の主張の一面[M] 10(3) (1959, 7)
- 辻村江太郎：習慣形成——消費者行動の動的側面[C] 5(4) (1954, 10)
- ：高田保馬『消費函数の研究』[R] 8(3) (1957, 7)
- 都留重人：国民所得における「政府」の位置[A] 1(1) (1950, 1)
- ：税法上の公正と適用上の公正[S] 1(2) (1950, 4)
- ：再生産表式における蓄積と消費——ベッテレエム氏に答う[A] 1(3) (1950, 7)
- ：日本国民所得統計の検討(I)戦後国民総生産統計の吟味(1)[S] 2(4) (1951, 10)
- ：Marx's theory of the falling tendency of the rate of profit—a critique of critiques.〔付 野々村一雄訳文〕[A] 2(3) (1951, 7)

- ：国際国民所得学会編『所得と富』第1巻[R] 3(2) (1952, 4)
- ：Digest of statistical research. Consumption expenditures in the post-war Japan.[N] 3(3) (1952, 7)
- ：Digest of statistical research. The Korean boom and its reaction in Japan.[N] 3(4) (1952, 10)
- ：国際経済学会の印象[M] 4(1) (1953, 1)
- ：日本貿易政策の主要問題点[A] 4(3) (1953, 7)
- ：副田・相原両氏に答う[M] 4(4) (1953, 10)
- ：経済審議序編 昭和28年度年次経済報告『経済白書』[R] 4(4) (1953, 10)
- ：杉本栄一『近代経済学史』[R] 5(1) (1954, 1)
- ：戦後日本経済の分析序論[N] 6(4) (1955, 10)
- ：『日本資本主義講座』の検討——戦後日本の政治と経済，貿易：貿易問題[R] 6(4) (1955, 10)
- ：A note on capital-output ratio.[A] 7(2) (1956, 4)
- ：岡稔氏の覚書にたいするコメント[M] 7(3) (1956, 7)
- ：末永隆甫『現代経済変動論——ケインズ派理論批判』[R] 7(3) (1956, 7)
- ：Empirical testing of the macro-economic planning in Japan. [A] 9(1) (1958, 1)
- ：ケネー『経済表』の利用と展開——マルクス再生産論における2, 3の問題について[A] 9(4) (1958, 10)
- ：I. B. トイバー『日本の人口』[R] 10(3) (1959, 7)
- ：資本の産出効果[M] 11(1) (1960, 1)
- ：第3次産業と経済成長[A] 11(2) (1960, 4)
- ：高須賀義博：再生産表式と固定資本の補填[S] 10(4) (1959, 10)

[U]

- 内田忠夫：国際収支の巨視的分析について[C] 8(3) (1957, 7)
- ：渡部経彦：予測力の評価——とくに設備投資について[A] 10(3) (1959, 7)
- 宇田川璋仁：J. T. ダンロップ『団体交渉下における賃金決定』[R] 3(2) (1952, 4)
- ：木下和夫・藤田晴・橋本徹『現代財政政策の理論』[R] 10(1) (1959, 1)
- 上原専祿：ドイツ中世における経済構造変化の問題とドーブシュ教授の問題意識[A] 2(3) (1951, 7)
- 上野裕也：所得および価格変化と家計——東京都CPS分析[C] 3(4) (1952, 10)
- 上杉正一郎：日本の工業における剰余価値率の計算[C] 3(2) (1952, 4)
- 氏原正治郎：いわゆる「絶対的窮乏化法則」の社会政策的解釈について[C] 8(3) (1957, 7)
- 梅村又次：経済的成長に関する研究(コーリン・クラーク

- クの批判を中心として)日本経済の成長率に関する研究(第2報)Ⅱ成長率[S] 3(1) (1952, 1)
- ：J. ロビンソン『経済学論文集』[R] 3(4) (1952, 10)
- ：J. ロビンソン『利率及び其他に関する論文集』[R] 4(1) (1953, 1)
- ：技術進歩と所得分配率[M] 4(2) (1953, 4)
- ：産業構造と資本係数(I)工業・商業の資本係数(2)産業別，規模別資本係数——「工業調査書」「商業調査書」を素材として[S] 5(1) (1954, 1)
- ：家族経済と労働市場——潜在失業の研究[A] 5(2) (1954, 4)
- ：イギリスの資本形成[M] 6(3) (1955, 7)
- ：戦後日本経済の分析，生産性・雇用：石炭業における不況と合理化[N] 6(4) (1955, 10)
- ：ロビンソン夫人のThe simplest possible modelについて[C] 6(4) (1955, 10)
- ：古典派賃金理論[M] 8(1) (1957, 1)
- ：労働力の構造と変動[A] 8(3) (1957, 7)
- ：農家の労働供給[M] 10(2) (1959, 4)
- ：人口趨勢と経済成長——マルサス人口理論の評価[A] 10(4) (1959, 10)
- ：労働力および就業の趨勢[S] 11(2) (1960, 4)
- ：野田 孜：剰余価値率と分配率の実証的研究Ⅰ．日本の剰余価値率と分配率(2)農業のばあい[S] 3(2) (1952, 4)
- ：Noda, T.: Digest of statistical research.[N] 3(2) (1952, 4)
- 宇野弘蔵：『資本論』における恐慌の必然的根拠の論証について[A] 3(4) (1952, 10)
- ：いわゆる窮乏化の法則について[C] 8(1) (1957, 1)

[W]

- 渡部福太郎：景気変動の国際的波及についての一試論[C] 11(1) (1960, 1)
- 渡辺 建：『経済表』生成の一考察——「穀物」論における農業の実態から「経済表の分析」が前提とする農業の状態への発展過程について[A] 9(4) (1958, 10)
- 渡辺輝雄：『経済表』(原表)の構想[A] 9(4) (1958, 10)
- 渡部経彦・内田忠夫：予測力の評価——とくに設備投資について[A] 10(2) (1959, 7)

[Y]

- 山田秀雄：L. ロビンズ『イギリス古典学派の経済政策理論』[R] 4(4) (1953, 10)
- ：生産的労働について——スミスの二重規定を中心に[M] 6(1) (1955, 1)
- ：イギリスにおける産業独占形成の一側面——第一次世界大戦前における綿業・鉄鋼業のコンビネーション[A] 9(2) (1958, 4)
- ：ホブスン『帝国主義論』に関する覚書——Finan-

- cier の評価をめぐって[M] 10(1) (1959, 1)
- ：イギリス鉄鋼業における集中[S] 11(1) (1960, 1)
- ：産業革命期のイギリスの経済成長[S] 11(2) (1960, 4)
- 山田 勇：ソ連の生産指数[S] 1(1) (1950, 1)
- ：経済量の統計的予測理論——国民所得の統計的予測[A] 1(2) (1950, 4)
- ：ノールウェイにおける国民経済計算(附 オランダにおける国民経済計算)[S] 1(3) (1950, 7)
- ：アメリカ計量経済学界の中心課題[C] 2(4) (1951, 10)
- ：レオンチェフ体系と生産函数[A] 3(3) (1952, 7)
- ：拙稿「レオンチェフ体系と生産函数」への家本教授の批判に答えて[M] 3(4) (1952, 10)
- ：日本経済の成長率と生活水準[S] 4(4) (1953, 10)
- ：レオンチェフ体系の計測について[A] 5(1) (1954, 1)
- ：レオンチェフ体系と極大原理[M] 5(2) (1954, 4)
- ：戦後日本経済の分析，産業連関分析：経済循環図表と費用・配分構造[N] 6(4) (1955, 10)
- ：産業連関分析におけるアグリゲーションの経済的意味について[M] 7(2) (1956, 4)
- ：経済自立 5 ヶ年計画と戦後の日本経済分析[S] 7(3) (1956, 7)
- ：生産の動きと附加価値の動き[M] 8(1) (1957, 1)
- ：日本の経済計画(III) 経済計画のマクロ・モデル分析——7%モデル作業を中心として[S] 8(4) (1957, 10)
- ：水谷一雄『数学的思惟と経済理論』[R] 9(2) (1958, 4)
- ：産業連関分析と需給函数——物量投入係数の算定法[A] 9(3) (1958, 7)
- ：ドーフマン，サムエルソン，ソロ『線型計画法と経済分析』[R] 9(4) (1958, 10)
- ：経済予測とパラメーターの安定性[M] 10(3) (1959, 7)
- ：K. J. アロー，M. ホッフエンベルグ『産業連関需要の時系列分析』[R] 11(1) (1960, 1)
- ：国際貿易と技術進歩[A] 11(2) (1960, 4)
- ：P. J. ブエルヴェ『ノルウェイの経済計画，1947—1956』[R] 11(2) (1960, 4)
- 山田耕之介：野々村一雄『国民所得と再生産』[R] 9(3) (1958, 7)
- 山田雄三：計画対象としての国民所得の決定[A] 1(2) (1950, 4)
- ：スターリン論文と近代理論の反省[M] 4(3) (1953, 7)
- ：第 3 回国際国民所得学会[M] 5(1) (1954, 1)
- ：J. Robinson と「古典派的」問題——分配論・生産論・価値論[C] 8(2) (1957, 4)
- ：経済計画における理論的モデルと歴史的パターン[A] 8(4) (1957, 10)
- ：W. G. ホフマン，J. H. ミュラー，その他『ドイツの国民所得 1851—1957 年』[R] 11(1) (1960, 1)
- 山口 茂：銀行の健全性と金融組織[A] 2(2) (1951, 4)
- 山本二三丸：資本蓄積論の課題[A] 4(1) (1953, 1)
- ：講座『恐慌論』にたいするコメント[C] 10(1) (1959, 1)
- 山中隆次：マルクス『学位論文』(1841 年)について——マルクス——ヘーゲル関係理解のために[C] 9(2) (1958, 4)
- 山中篤太郎：日本労働の構造的展開[A] 2(4) (1951, 10)
- 山内一男：社会主義下における価値法則の作用に関する中国での討論[C] 9(3) (1958, 7)
- 山下 貢：マラマの『後進国経済開発論』について[C] 10(3) (1959, 7)
- 安井琢磨：循環的成長に関する 1 試論[A] 5(3) (1954, 7)
- 横山正彦：ケネーの経済循環論について[A] 7(1) (1956, 1)
- 米沢治文：E. ヘルデ，O. クーン『統計学原論』[R] 8(2) (1957, 4)
- 吉田義三：ポール・スキージー著『資本主義発展の理論』[R] 1(1) (1950, 1)
- ：再びスキージーの過少消費説について[C] 1(3) (1950, 7)
- ：剰余価値率の測定について[A] 3(2) (1952, 4)
- ：中山伊知郎編『日本経済の構造分析』[R] 5(4) (1954, 10)
- 吉野昌甫：財貨本位と労働本位[C] 10(4) (1959, 10)
- 吉野俊彦：終戦後における我国市中銀行のオーバーローンについて[A] 5(3) (1954, 7)
- 吉信 肅：比較生産費説の生成にかんする一考察——R. Torrens の The economists refuted を中心として[A] 11(1) (1960, 1)
- 吉植 悟：新長期経済計画の産業連関分析[A] 10(3) (1959, 7)

[Z]

- 昭和 27 年度 経済安定本部『年次経済報告』の検討[研究座談会] 3(4) (1952, 10)
- 日本経済の研究方法与近代経済学[研究座談会] 4(2) (1953, 4)
- 昭和 29 年度 経済審議庁『年次経済報告』の検討[研究座談会] 5(4) (1954, 10)

〔付記〕 この総索引は一橋大学経済研究所創立 20 周年記念の『経済研究』特集号(第 11 巻第 2 号)の巻末につける予定でつくったのであるが都合により『特殊文献目録シリーズ No. 7』として刊行した(阿曾福円)

特殊文献目録シリーズ刊行目録

- No. 1. Author and Subject Indexes to the American Economic Review, 1941—1954. 1955.
- No. 2. Author and Subject Indexes to the Review of Economic Studies, 1933—1955. 1956.
- No. 3. Author and Subject Indexes to the Economic Journal, 1941—1956. 1957.
- No. 4. Index alphabétique des auteurs et des sujets de la Revue d'Economie Politique, 1940—1956. 1957
- No. 5. 一橋大学経済研究所蔵 雑誌目録 昭和 34 年(1959)10 月末現在 1959.
- No. 6. 一橋大学経済研究所蔵 アジア文献目録(欧文の部) 1960.

